

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関有知高等学校 学校番号 34

## I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった逞しく実践力のある心温かな人間を育み、よき地域社会人の育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として社会に貢献できる生徒。</li> <li>基礎力を身に付け、優れた創造性と豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協働できる生徒。</li> <li>SDGsの視点に立ち、広い視野から思いやりの心を持って物事を考え、社会や地域の抱える課題の解決に、積極的かつ継続的に取り組もうとする生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するための、基礎力の習得を重視したカリキュラムの編成。</li> <li>ICT機器を活用した授業、習熟度別授業、少人数授業・チームティーチング等の多様な授業形態及び評価を工夫した、個々に応じた細かな指導の実施。</li> <li>地域の暮らしや仕事に親しみ、地域文化の素晴らしさを実感するとともに、SDGsの視点から地域や社会の課題を考える体験の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の暮らしや仕事、文化に興味を持ち、将来、地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として地域の課題を解決していきたいと考える生徒。</li> <li>基礎力をしっかりと身に付け、自らその上にさらに深く学ぶことで、自身の可能性を伸ばし、進路目標を実現したいと考える生徒。</li> <li>思いやりの心とコミュニケーション能力を持ち、社会で他者によりよく関わり、社会貢献をしたいと考える生徒。</li> </ul>

3 評価する領域・分野	【教務部】教育課程・学習指導			
4 現状の分析	○保護者・生徒ともに関有知高校の教職員は熱心に学習指導に取り組んでいると評価している。 ▲保護者・生徒ともに本校の働き方改革への取り組みや、教育課程の工夫について「わからない」と回答する割合が高い。			
5 学校の抱える課題	◇保護者・生徒の本校の指導に対する評価は高いものの、学校行事以外のことは家庭に伝わりにくいように思われる。そこで、学校の実態が伝わるように教務分野での業務改善を進める。			
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務分野でICT機器を有効活用した業務の軽減を進める。</li> <li>授業評価を継続して行うことで、更なる学習指導力の向上に結び付ける。また、新しい教育課程の実施や観点別学習状況評価の実施を支援する。</li> </ul>			
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい教育課程の実施や観点別学習状況評価の実施を支援</li> <li>(2) ICT機器やデジタル技術を活用して教務分野の業務改善を図る</li> <li>(3) 全校生徒を対象とした授業評価を実施し、分析を行い更なる授業改善を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保護者や生徒によるアンケートで、働き方改革への取り組みや教育課程の工夫についての回答が改善する</li> <li>(2) 業務改善により、教務分野の業務を効率的に進められるようになる</li> <li>(3) 新しい教育課程や観点別学習状況評価をスムーズに実施することができる</li> </ul>			
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価		
<ul style="list-style-type: none"> <li>出席簿や学校日誌、出張届などをデジタル化することによる業務の効率化</li> <li>年2回の授業評価を実施し、自己分析を行うことによる授業改善</li> <li>教育課程の実施状況や、観点別学習状況評価の状況を把握した課題の把握と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①業務のデジタル化を進めることができたか、効率化は進んだか</li> <li>②授業評価を実施し、授業改善につなげることができたか</li> <li>③教育課程は円滑に実施することができたか</li> </ul>	<p>○ A B C D</p> <p>A ○ B C D</p> <p>A ○ B C D</p>		
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出席簿や学校日誌などをデジタル化することで、大幅に業務を効率化することができ、作業上のミスなどが予防できた</li> <li>○授業改善に継続的に取り組むことにより、授業に対する評価は概ね良い状態を継続することができた</li> <li>○新しい教育課程を概ね円滑に実施することができ、生徒の状況を踏まえた改善案を提案できた</li> <li>▲観点別学習状況評価については、さらなる検討・研究の必要がある</li> <li>▲授業評価の分析を行い、さらに授業改善に役立つものにしていく必要がある</li> </ul>		<p>総合評価</p> <p>A ○ B C D</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務分野での業務改善に継続的に取り組むとともに、担当者が変わっても持続的に運用できるシステムにするための改善を進める</li> <li>新しい教育課程の実施状況や生徒の学力や学習の状況を把握し、教育課程の見直しと改善を継続的に行う</li> <li>観点別学習状況評価の考え方や実施の方法を改めて整理し研修を行うことによって、教科担任が効率的かつ自信をもって授業および評価を実施できるよう支援する</li> </ul>			

3 評価する領域・分野	【教務部】図書・情報管理・地域との連携	
4 現状の分析	○学校HPや一斉メール配信を用いた情報発信やICTを活用した学習活動について生徒は評価している ○地域の仕事や文化に触れる機会の提供について生徒は評価している ▲ICTを活用した学習活動や地域の仕事や文化に触れる機会の提供についての保護者評価が低い ▲図書館貸出冊数が少ない	
5 学校の抱える課題	◇ICTを活用した学習活動の成果や地域の仕事や文化に触れる機会の提供について情報発信を進める	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・学校HPの活用を通じた情報発信や広報活動を進める ・本校の実情に合った図書室の活用方法の研究と実践を進める ・総合的な探究活動などを通して、地域との連携を深める ・グループウェアや各種アプリケーションの活用による業務効率化、情報共有の推進をする	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ICT機器を日常的に利用するための支援 (2) 学校HPの更新による情報発信 (3) 地域連携型探究活動の活性化と情報発信 (4) 利用しやすい図書館の環境づくり	(1) ICT機器の活用頻度の充実 (2) 学校HPの見やすいレイアウトを検討 (3) 保護者等を対象とする学校アンケートの該当項目の結果 (4) 図書館の貸出冊数・閲覧数	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・ICT機器の整備、積極的活用の啓発 ・学校HPの更新と活用 ・関有知ジモト大学と関有知マルシェの連動 ・図書館の環境改善	①ICT機器の整備活用は充分であったか ②ホームページは閲覧しやすくなったか ③関有知ジモト大学の事後アンケート結果 ④本年度の貸出冊数	A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D
12 成果 課題	○ICT機器については本校の生徒に適した形で、無理なく日常的に活用することができた ○「福島ひまわり里親プロジェクト」「関有知ジモト大学」の実施や、関市の「環境フェア」への参加により、保護者の「地域の仕事や文化にふれる機会」の結果が改善した(57%→69%) ○図書館の貸出冊数が増加した(1人当たり4.0冊→4.6冊) ▲学校HPをさらに見やすく更新する必要がある	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	・学校HPを更に見やすくなるよう内容を更新する ・各種ICT学習支援ツールの利用しやすい環境を整え活用を促進する ・関有知マルシェを実施し、地域活性化への貢献と関有知高校のPRを実施する ・図書館の利用環境のさらなる改善を行う	

3	評価する領域・分野	【教務部】研修・渉外	
4	現状の分析	○ICTを活用した学習活動など熱心に学習指導に取り組んでいる ▲職員研修をどのように行うことが効果的か工夫が必要 ▲P T A役員への業務内容の理解不足	
5	学校の抱える課題	◇学習指導や生徒指導の取組を職員が共有し、ステップアップにつながる改善を進める	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・免許更新制廃止後も、継続的に教員がスキルアップを図ることができる仕組みづくりと、教員研修を重視する雰囲気の醸成を進める ・P T A組織の改編を行う	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 職員研修の実施 (2) 教員相互の授業参観 (3) P T A活動の周知	(1) 適切な時期に校内研修を実施 (2) 授業参観週間中の参加者数 (3) P T A役員決定の	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	・外部講師を招いての職員研修 ・授業参観週間による授業交流の促進 ・P T A役員との業務内容の精査	①適切な時期に計画的に進め、 教員の意識の変化があったか ②研修を振り返り、実践につながる ことができたか ③現P T A役員の理解は得られたか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12	成果 課題	○本校の実情にあった、掃除、ボランティア活動、授業改善、保護者対応等多くの研修を実施することができた ○教員相互で授業を見る、見せることにより授業力の向上だけでなく、生徒をより深く見ることができ、さらに職員間で話題にすることで共通理解ができた ○P T A役員との打合せにより、改編に向けた方向性が確認できた ▲放課後の時間等に限りがあるため、効果的な研修の実施方法を考える必要がある	総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案	・今年度の反省を生かし、研修の時期や方法を精選し、より有意義な研修を実施する ・積極的に職員の見解を取り入れ、ニーズに合った研修を実施する ・P T A組織の改編（スリム化）を行う	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器やデジタル技術を活用することにより、教員業務の負担軽減を図った業務負担軽減は評価できる。</li> <li>・授業評価を生徒にフィードバックしていないとのことだが、結果を提示できるようにするとよい。</li> <li>・職員研修を掃除、ボランティア活動、保護者対応等多く実施していることは評価できる。出席率を出し欠席者には何らかの方法で研修できる環境を整えてもらいたい。</li> </ul>
--

3	評価する領域・分野	【生徒指導部】生徒指導・教育相談	
4	現状の分析	<p>○高校生としてのマナーや規範意識の醸成を促す働きかけに対し、保護者、生徒共に評価している</p> <p>▲いじめや差別に対して、教育相談やスクールカウンセラーと連携を図り組織的に対応しているものの、その活動が生徒や保護者に浸透していない割合が高いため、困った時に学校内でSOSを出せる場所があるということを、更に周知していく必要性がある。</p>	
5	学校の抱える課題	◇生徒指導の役割は問題行動の未然防止であるが、問題行動発生の際に、学校の指導が今後の行動の改善になるよう、生徒・保護者に働きかけ、理解を求めることが必要	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生としてのマナーや、社会規範を守った生活を送れるよう、学校生活の様々な場面で機を捉えた働きかけを行う</li> <li>・問題行動が発生した際、教員間の迅速な情報伝達により、管理職を含めた組織での事案対応を進める</li> <li>・教育相談係を中心に、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図った対応を進める</li> </ul>	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<p>(1) 身だしなみ、遅刻、スマートフォンの使用授業規律の指導</p> <p>(2) 教員間での更なる情報交換の実施</p> <p>(3) 教育相談週間や各種アンケートの実施による、いじめ・迷惑行為の早期発見と対応</p>	<p>(1) 問題行動の状況、生徒意識調査等の結果</p> <p>(2) 保護者・生徒対象の各種調査結果</p> <p>(3) 生徒の行動や思考の変化</p>	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回の身だしなみ検査の実施、スマートフォンの使用違反に関する指導</li> <li>・生徒が抱える課題への対応と職員間の情報共有</li> </ul>	<p>① 学校生活全般の規律</p> <p>② いじめ・迷惑調査などの回答結果とその後の対応</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12	成果・課題	総合評価	
	<p>○ 各種調査により把握した生徒の悩み等に対し、教員間の情報共有や保護者との連携をより密にすることで生徒支援を図れた</p> <p>▲ 価値観が多様化する中で、生徒の登校意欲や規範意識の低下が課題であるため、卒業後に社会で通用する言動ができるよう、学校生活の様々な場面を通して働きかけが必要</p>	<p>A (B) C D</p>	
13	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会規範醸成に向け、学校生活の様々な場面で粘り強く声掛けを行うことにより、目指す生徒像をわかりやすく伝える</li> <li>・支援を必要とする生徒に対し、学年や学校など組織的に対応する</li> </ul>		

3	評価する領域・分野	【生徒指導部】特別活動		
4	現状の分析	○課外活動や学校行事に関する充実度は高く、学校として行事の運営や環境の整備は評価されている ▲生徒会活動への理解がやや低い傾向があり、学校行事等の運営だけでなく、全校生徒の代表として主体的に様々な活動に携わることが求められる		
5	学校の抱える課題	◇生徒会が主体的に活動するための働きかけと学校行事の充実を進める		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を支援し、生徒自身が学校生活の質を高める</li> <li>・スポーツ大会や文化祭など生徒が主役となって活動し、充実した学校行事にするための計画・準備を支援する</li> </ul>		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 生徒会執行部やMSLによる「あいさつ運動」と「交通安全啓発活動」 (2) 生徒会・各種委員会主導の学校行事の運営		(1) 活動参加状況と年度末の活動報告書 (2) 職員・保護者・生徒対象の各種調査結果	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜日（8:10～8:25）に「あいさつ運動」や「交通安全啓発活動」の実施</li> <li>・毎週水曜日、生徒会執行部会の実施</li> <li>・必要に応じて各種委員会の実施</li> </ul>		①活動への参加状況 ②学校行事毎の職員アンケートの結果 ③保護者・生徒対象の各種調査結果	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○MSLや生徒会執行部による「あいさつ運動」や「交通安全啓発活動」など生徒が主体的に全校生徒に呼びかけを行うなど年間を通して継続的に活動できた</li> <li>○生徒会執行・各種委員会を定期的実施し、学校行事の計画・実施に大きく貢献することができ、生徒対象の調査では、「生徒会活動が活発である」の項目が13%上昇した</li> <li>▲教員の働きかけにより、活動することのできる生徒も多く、教員や保護者、地域の方々の支援が必要不可欠である。生徒が主体性をもって活動できるようにするため、学校行事の企画・運営において周到な準備が必要</li> </ul>		総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を生徒の意見が反映されたものにするため、生徒会執行部が行事毎の企画・運営を見直しする場を設ける必要がある</li> </ul>			

3 評価する領域・分野	【生徒指導部】保健管理・安全管理	
4 現状の分析	○生徒の安全への配慮や未然防止、けが等の対応について評価が得られている ▲非常変災時の対応について保護者に十分な周知が図られていない	
5 学校の抱える課題	◇非常変災時の対応についての周知徹底を図る ◇危機管理マニュアルの適切な見直しと学校安全教育の推進を進める ◇保健指導、保健教育の推進を図る	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・非常変災時の安全確保や対応の強化を推進する ・日常掃除を徹底し学習環境の整備・美化に努める ・保健指導・健康相談による自己管理能力の育成や体力向上を図る	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 有事に備えた訓練とその検証 (2) 環境美化維持や整備による事故予防 (3) 保健管理と保健教育の更なる推進	(1) 訓練時の取組状況 (2) 学校評価アンケートの結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・年間3回の命を守る訓練と学校緊急連絡メールによる帰宅確認訓練の実施 ・安全教育の一環として救急法講習会や防災学習の実施 ・月末大掃除の実施、安全点検活動と事後措置 ・保健だよりによる健康管理の啓発や保健指導、教科での保健教育の取り組み	① 訓練や講習等の活動は組織的に取り組めたか ② 安全点検報告が提出されているか ③ 保健室利用状況や定期健康診断未処置者の把握状況	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
12 成果 課題	○生活安全、交通安全は生徒指導部と連携して進めることができた ○新体力テストの結果、県から「体力向上校」に認定されたが、保健教育の成果の現れと見て取れる ・ ▲非常変災時のマニュアルは学校HPに掲載してあるが保護者への認知度が低いことや、学校緊急連絡メールの登録状況とその活用が課題 ▲災害安全に対して計画的な訓練等は実施しているが、その内容についてはさらに工夫が必要	
13 来年度に向けての改善方策案	・学校緊急連絡メールの保護者登録とその活用について年度当初に徹底を図る ・非常変災時の対応については、紙面の配付とともに連絡メールで周知する ・安全管理は、防災学習・命を守る訓練等、内容を工夫して安全教育を進める	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・MSLや生徒会役員等の生徒主体の「あいさつ運動」は素晴らしい。これを機に地域の人にもあいさつすることができるよう意識の醸成を図ってもらいたい</li> <li>・自転車乗車時はヘルメット着用となるが、登校後にドライバーが使用でき、鏡のあるレストルームを設置するなど施設整備をしないと定着は難しい</li> <li>・防災教育について、リスクマネジメントの観点からも、備蓄食等は校内でも耐震性の強い部屋に保管し生徒、職員共にどこに保管してあるのかを周知徹底できるとよい。また、AEDの設置場所も併せて周知できるとよい</li> </ul>

3 評価する領域・分野	【進路指導部】	
4 現状の分析	<p>○生徒の進路希望に合った適切なアドバイスができており、保護者に対しての認知度も上昇傾向にあり評価されている</p> <p>○生徒個々に合った情報提示をすることで、学習習慣を養うため家庭学習の定着を図る取り組みが浸透してきている</p> <p>▲保護者には学校で実施する進路学習の内容が不透明であり、学習の定着を図る取組が認知されていない割合が高い</p>	
5 学校の抱える課題	◇進路学習や進路行事を通して生徒の希望に沿ったアドバイスや情報提供を実施しているが、保護者にうまく伝わっておらず、学校や生徒個人の取り組みを、保護者が確認できるようなシステム構築の改善を進める	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが、進路を選択できる能力や態度を育成するため、生徒個々のニーズに応じた進路学習を進める</li> <li>・望ましい勤労観・職業観の育成に向けた体験的活動の実施やキャリアプランナーをはじめ関市や地域の外部団体との連携を推進する</li> <li>・生徒、学校、保護者の共通理解のもと進路を決定する</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校内外進路ガイダンス等の実施 (2) キャリアプランナーや関市商工課と連携した企業との情報交換や企業ガイダンス (3) 進路教材の見直しと学習習慣の構築	(1) 生徒の感想、企業、上級学校の感想、卒業後の生徒の様子 (2) 生徒の感想、関市商工課や企業の感想 (3) 基礎力診断の結果の推移	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
進路なんでも相談会、3年生との交流会、企業・大学見学ツアー、進路別体験講座、インターシップ、進路別ガイダンス、職業体験インタビュー、進路別対策講座、面接・小論文指導、進学就職補習	<p>①就職や進学についての関心を高めることができた</p> <p>②仕事に対する考え方を深めさせることができた</p> <p>③進学に対する視野を広げさせることができた</p> <p>④目指す進路に対してより具体的に考えさせることができた</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果課題	<p>○進路指導部と学年会が連携して行事等の企画運営ができた</p> <p>○キャリアプランナー、関市商工課と協力し企業展や企業見学を行った</p> <p>○各種行事を通じて、仕事への関心や進路を決定するための学びが充実した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・▲保護者に対して、進路の取組みの発信方法を検討する必要がある</li> <li>▲進路選択の幅を広げるために更なる学習習慣の確立が必要である</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路に備え、最低学力の保証ができるように日々学ぶ姿勢の大切さを示す</li> <li>・個々の課題を的確に捉え生徒一人一人が自分の課題に向かい努力できる環境づくりを目指す</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根差すといった観点からも、市役所、警察官、消防員といった公務員試験の対策を実施してもらいたい</li> <li>・生徒が個々の課題を的確に捉えた学習習慣の確立及び学力向上を目指し、次年度から学習支援ソフトを導入することのだが、新聞を活用した学習習慣の確立や向上に取組んでもよい</li> </ul>

3 評価する領域・分野	【家庭教育部】	
4 現状の分析	○生活デザイン科において特色ある学習活動やボランティア活動が評価されているため、さらなる理解の向上に向けた取組みを実施する ▲実習の苦手な生徒が増えており、授業及び検定内容の精選と指導法の工夫をし、達成感を得られるような指導法を考える必要がある	
5 学校の抱える課題	◇専門科目の授業・検定・外部講師講習会を通し、より専門的な知識と技術の向上を進める ◇ボランティア・地域交流活動に積極的に参加することを通し、実践力・コミュニケーション力を育成し生徒の課題解決能力を高める	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・学科行事の企画について、改善・推進を行う ・学校家庭クラブ活動の更なる推進を図る ・Sクラブ活動の指導の充実を図る	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 専門科目・コースの系統立てた授業と効果的な外部講師講習会の実施 (2) 専門科目及び学校家庭クラブ活動、Sクラブ活動、福祉協力校の活動、ボランティア活動を通じた地域交流の促進	(1) 生徒及び外部講師による評価および各種検定やコンクールの取組みと成果 (2) 生徒及び地域交流施設による評価・助言	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・専門科目・コースの系統立てた授業内容と外部講師講習会内容の見直し ・各種検定試験、コンクールへの挑戦 ・対面交流以外での地域連携・交流 [関市福祉協議会・特別養護老人ホームハートフル・あかつき障害福祉サービス事業所つくし・安桜ふれあいクラブ・下有知保育園]	①知識・技術の定着、実践と各種検定・コンクールへの応用 ②検定合格者数、コンクールへの取組み状況 ③連携・交流先施設による評価と助言	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 課題	○外部講師講習会の実施により、生徒により専門的な知識と技術を習得させることができ、昨年度よりも多くのコンテストや作品応募に挑戦させることができた ・○検定試験の実施により、専門分野において技術・技能を高めたことで、ビジネス文書検定1.2級において数名が合格した ○多くの校内・校外でのボランティア活動の機会を作った ▲家庭科技術検定において生徒の能力や金銭面を考慮して精選する必要がある ▲生活産業分野への就職、進学ともに昨年度より減少した	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	・進路指導において、入学時から家庭科への学習意欲を高め、生活産業分野において活躍できる生徒を育てる ・家庭科技術検定においては、コースごとの特徴を出せるよう受験内容を精選する ・校内および学校周辺で行うことができるボランティア活動を実施する	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】
・多くのボランティア活動の機会を提供したことで、地域との連携や交流を図れているが、高校生が施設に訪問に来ると、雰囲気明るくなるためたいへんありがたい
・実習の苦手な生徒が増えているとのことだが、何が課題で苦手意識があるのかを検証し、対応策を検討してほしい